

## 城下町と宿場町

伊賀市は、三重県北西の内陸部に位置する人口約9万2千人の市である。古くは豊臣秀吉の家臣であった筒井貞次によって築城され、伊賀・伊勢の地に転封となった藤堂高虎によって拡張改修された伊賀上野城の城下町として、また、交通の要衝であったため宿場町としても栄えた。市中心部には城下町、宿場町としての面影を残す古い建物が多く、その街並みには落ち着いた風情が漂う。

そんな歴史のまち伊賀市だが、現在は多くの地方都市と同様、出生率の低下と大都市圏への人口流出による人口減少と高齢化の問題に直面している。三重県全体でも人口減少と高齢化が進んでいるが、伊賀市のそれらのスピードは



県の平均を上回っている。こうした状況下、伊賀市は17年3月31日、「伊賀市シティブ

## 一般財団法人日本不動産研究所 ⑨ 地域資源を生かす ～まちづくりからインバウンドまで

### 三重県伊賀市

ロモーション指針」を策定し、この中で伊賀市は人口減少社会における持続可能なまちづくりを標榜し、そのために「観光」を軸としたまち全体のブランド化に重点的に取り組む方針を示している。

伊賀市の観光といえば、まず想起されるのは「忍者」だろう。17年2月22日、伊賀市は「忍者市宣言」を行った。2月22日で「ニンニン」なのだそう。伊賀市長名の宣言には「伊賀市が忍者発祥の地であることを認識し、忍者の歴史文化や精神を継承するとともに、忍者を活かした観光誘客やまちづくりを行う

ことを目指す」とある。もちろんこの宣言のずっと前から、忍者を観光の目玉にする様々な取り組みが行われている。

毎年4月上旬からゴールデンウィークにかけて開催される「伊賀上野NINJAフェスタ」では市中を忍者姿で歩き回る多くの観光客の姿が見られる。忍者修行やコスプレの企画もあり、県内はもとよ

### フェスタと博物館



人気のある伊賀流忍者博物館

車が市内を走り、忍者の里の演出に一役買っている。ただし、伊賀市の観光は「忍者」だけではない。「上野天神祭のダンジリ行事」は16年10月にユネスコ無形文化遺産に登録される行事であり、また伊賀市は松尾芭蕉の生誕地、生家や記念館のほか「養虫庵」という芭蕉五庵の中で唯一現存する草庵もある（松尾芭蕉は忍者だったという都市伝説を「存じの方も多いだろう」）。

## 「忍者発祥の地」で松尾芭蕉の生誕地

## 「観光」軸にまちブランド化

る。伊賀流忍者屋敷と忍術体験広場での忍術ショーが主な施設・コンテンツだが、この忍術ショーは手裏剣などを使って緊迫感がある中にコメディ要素もあって、誰もが楽しめる催しである。

このほか、伊賀鉄道伊賀線の松本零士がデザインした青・緑・ピンクの忍者電車

が市内を走り、忍者の里の演出に一役買っている。ただし、伊賀市の観光は「忍者」だけではない。「上野天神祭のダンジリ行事」は16年10月にユネスコ無形文化遺産に登録される行事であり、また伊賀市は松尾芭蕉の生誕地、生家や記念館のほか「養虫庵」という芭蕉五庵の中で唯一現存する草庵もある（松尾芭蕉は忍者だったという都市伝説を「存じの方も多いだろう」）。

13年から「伊賀学検定」という「当地検定を実施するなど、地道な取り組みが進行する伊賀市。上記プロモーション指針とセットで策定された「観光プロモーション戦略（案）」には様々な具体的取り組みが掲げられているが、多くはこれらが本番のよう



⑤まちを象徴する伊賀上野城「ゆい」を伊賀市へ」の看板



伊賀市の玄関口・上野市駅と松尾芭蕉像